



日本形成外科手術手技学会 *News Letter*

第18号 2023年5月22日発行
発行 日本形成外科手術手技学会 事務局
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12
新宿ラムダックスビル 榊春恒社内
MAIL : jsitps@shunkosha.com

－ 目 次 －

- * 学術集会予定
- * 第28回 日本形成外科手術手技学会 報告
- * 第29回 日本形成外科手術手技学会 お知らせ

学術集会予定

第29回日本形成外科手術手技学会

会 長：上村 哲司（佐賀大学医学部形成外科 診療教授）
会 期：2024年3月2日(土)
会 場：ホテルグランデはがくれ（佐賀県佐賀市）
テーマ：＜挑戦＞～映像とアートで伝える手技～

※理事会：3月1日(金) ホテルニューオータニ佐賀

第30回日本形成外科手術手技学会

会 長：鳥山 和宏（名古屋市立大学形成外科 教授）
会 期：2025年3月1日(土)
会 場：ウイंकあいち（名古屋市）

第31回日本形成外科手術手技学会

会 長：元村 尚嗣（大阪公立大学大学院医学研究科形成外科学 教授）
会 期：2026年

第 28 回 日本形成外科手術手技学会 報告

会長 梶川 明義（聖マリアンナ医科大学 形成外科学教室 教授）

初夏の心地よい風を感じるこのごろ、学会員の皆さまにおかれましては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、みなさまのご参加、ご協力をいただき、2023年3月4日に「ステーションカンファレンス川崎」にて第28回日本形成外科手術手技学会を開催させていただきました。

幸いにも新型コロナウイルスも鎮静化し、多くの会員の皆様の現地ご参加をいただき、盛り上がった学会を開催することができました。会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

今回の学術集会はメインテーマを「Game Changer を目指せ！突破！！」とさせていただき、形成外科の世界にある多くの難題を「突破」し、「Game Changer」となるような新しい手術手技を募集させていただきました。会員の皆様から多くの演題が寄せられ、学会では熱い議論が交わされました。学会終了後、座長推薦の多かった「一般演題」の中から厳選の上、下記の演題を『突破賞』に選ばせていただきました。

*津下 到 先生（京都大学大学院医学研究科 形成外科学）

*演題名「リアルタイム画像投影ナビゲーションを用いた自家リンパ節移植の試み」

また、動画発表を本学会の特長とすべく、13のビデオシンポジウムを開催させていただき、72演題が発表されました。他の形成外科医の手術動画をご覧ください、皆様にも多くの気づきがあったのではないのでしょうか。ビデオ演題の中で、やはり座長推薦の多い中から、下記の演題を『私たちの流儀賞』に選ばせていただきました。

*梅本 泰孝 先生（愛知医科大学 形成外科学講座）

*演題名「口径差のある静脈の微小血管吻合器を用いた吻合」

なお、発表者のご許可を頂いた演題は、3月22日から4月12日までオンデマンド配信をさせていただきました。学会当日、ご覧いただけなかった皆様のお役に立ったと思います。また、企業展示会場でも、手術手技学会らしい最先端の手術器具・材料を展示していただき、こちらにもご参加の皆様は興味を引かれたのではないのでしょうか。特別講演をお願いした澤田智恵様のヴァイオリン演奏とご講演にも、皆様から多くのお褒めの言葉をいただき、主催者として大変ありがたく思いました。

本学会が皆様の明日の手術手技向上のお役に立てば、幸いに存じます。また、若い先生方の新しい形成外科手術手技の開発意欲の刺激となつたとすれば、うれしく思います。

重ねて会員の皆様に感謝申し上げますと共に、日本形成外科手術手技学会理事長としても、学会のますますの発展のため、今後とも皆様のご指導、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

第 29 回 日本形成外科手術手技学会 お知らせ

会長 上村 哲司（佐賀大学医学部形成外科 診療教授）

2024 年 3 月 2 日（土）に、第 29 回日本形成外科手術手技学会をホテルグランデはがくれ（佐賀市）にて開催させていただきますこと、会員の皆様には心より感謝申し上げます。

佐賀県で形成外科の全国学会を開催するのは初めてのことであり、身の引き締まる思いです。

日本形成外科手術手技学会は、1995 年に形成外科内視鏡手術研究会として始まり、1996 年にその第 1 回目の研究会が開催されています。その後 2001 年に形成外科内視鏡・手術手技研究会に名称が変更され、2011 年から日本形成外科手術手技学会となり、発展してきました。元来は、名称にあるごとく形成外科領域の内視鏡手術を進める集会でしたが、その過程で内視鏡という名称が消え、現在に至っています。一方、他の外科系診療科は、低侵襲である内視鏡手術をすすめ、ロボット手術手技へと進化してきています。

今回の日本形成外科手術手技学会のテーマは、〈挑戦〉映像とアートで伝える手技です。

今回で 1996 年から数えて、第 29 回目の学術集会となります。本学会の特別講演として、佐賀大学医学部一般消化器外科の能城浩和先生に、外科領域の内視鏡手術の進化系であるロボット手術について、そして私の臨床研修医時代の恩師である奥津一郎先生に、整形外科領域の内視鏡手術の進化についての講演を賜り、われわれ形成外科が、内視鏡・低侵襲手術を再考する企画としました。また私が専門として行ってきた 7 つの領域の形成外科手技に関して、動画を用いた教育講演〈映像を用いたトリセツ〉を、7 人の形成外科医に依頼しています。

一般口演では、その演題の Key となるシェーマ 1 枚を描いてもらう〈手技をアートで伝える〉コンテストを行いますので、奮って応募してください。

佐賀県では、2 月中旬から 3 月末にかけて各酒蔵で酒蔵開きが行われています。また同時期には、佐賀市内の随所で佐賀鍋島藩の歴史的なひな祭りの展示が行われていますので、学会の前後で楽しんでいただければと思います。

映像とアートと手技をキーワードに、さまざまな討論が交わされる学術集会を目指しています。現地の本学術集会がより有意義なものとなりますよう、海の幸、山の幸に恵まれた街；佐賀でのご参加を心よりお待ちしております。

